

第1回 草津市教育情報化推進懇談会 議事録

■日時

令和3年8月17日(火) 10時00分～11時30分

■場所

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員

法花委員、加納委員、木村委員、角委員、太田委員、柳澤委員、奥村委員、
(オブザーバー) 草津市ICT戦略特別推進員 吉田氏

■欠席委員

なし

■事務局

教育部 作田理事、菊池副部長(学校教育担当)兼学校教育課長
児童生徒支援課 柴原課長
教育研究所 藤井所長
学校政策推進課 上原課長、糠塚ICT教育スーパーバイザー、尾関課長補佐、
西村専門員、山下主査

■議事録

10:00

事務局

本日は公私とも御多用のところ御出席いただきましてありがとうございます。ただいまから第1回草津市教育情報化推進懇談会を始めさせていただきます。

開会にあたりまして、草津市教育委員会事務局理事作田より御挨拶を申し上げます。

作田理事

改めましてこんにちは。教育部理事の作田でございます。

各委員の皆様には御多用のところ、また新型コロナウイルス感染拡大の不安と心配の中、御出席いただきましてありがとうございます。

日頃から皆様には、本市の教育行政の推進と充実に御理解と御支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、平成22年の電子黒板の導入を皮切りに、平成23年にはデジタル教科書、平成26年から3人に1台のタブレットパソコンの配備を進めて参りまして、平成27年に、ICTを草津の特色ある教育の一つとすべく、学校政策推進課という課を立ち上げて取り組んで参ったところでございます。

この取組の拠り所として平成 28 年 3 月に教育情報化推進計画を策定し、今日までの間、それをもとに取り組んで参りましたが、今年度がその計画の最終年度となります。計画策定から 6 年が経過し、社会のあり方そのものが劇的に変わる Society 5. 0 時代の到来を肌身に感じるとともに、G I G A スクール構想に伴う教育のデジタルトランスフォーメーションなど、教育の情報化は、教育の質的転換を図る重要な局面を迎えていると把握しております。

この懇談会で皆様それぞれのお立場、御経験から多様な御意見をちょうだいいたしまして、今後教育現場において I C T の活用をどう進めていくかの基本的な方向性を打ち出していきたいと考えております。

限られた時間の中での意見交流となりますけれども、率直な御意見を賜りますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。

事務局 まず初めに、第 1 回目の懇談会ですので、委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

<委員・事務局 自己紹介>

事務局 続いて、当懇談会の位置付けを御確認申し上げます。

<別紙 2 により説明>

なお、開催要綱第 3 条第 2 項において、本懇談会に座長を置くとしており、委員の互選により定めることとなっております。

どなたか座長の推薦・立候補はございますでしょうか。

<委員の互選により、加納委員が座長に就任した。>

<加納座長より、座長代理として木村委員が指名された。>

事務局 座長を加納委員にお願いし、これからの議事進行をお願いいたします。

座長 改めてよろしく申し上げます。あまり緊張せず、ざっくばらんに話をしていければと思います。

それでは、次第を御覧ください。

次第 2 の「教育情報化に係る草津市の取組状況について」ということで、3 つ項目があるんですけども、「教育の情報化をめぐる国の動向と草津市における教育の情報化の現状について」、「第 1 期草津市教育情報

化推進計画に関する進捗状況・評価について」を事務局から教わった上で、我々の方で意見交換をしたいと思います。

それを踏まえて、第2期の方針案というものが、事務局側で作成されておりますので、それについてもう一度我々で意見交換をするというような流れで進めていきたいと思っております。

では、事務局の方から、説明をお願いします。

<資料1・資料2により事務局説明>

事務局

以上で説明を終わらせていただきます。

委員の皆様から見た第1期計画の評価や課題等について御意見いただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

座長

ありがとうございました。

この懇談会は先ほど事務局からもあったように、基本的には意見交換、懇談の場となっているので、ざっくばらんな意見をいただきたいと思っております。

いろいろ思われることはあるかと思いますが、質問でも意見でも感想でも構いません。第2期を作るということが今回の目的になっているので、なるべく、今後の課題についてお話がある方が、第1期の反省を踏まえて第2期につなげるという形で意見交換できればと考えています。

どなたからでも構いませんが、いかがでしょうか。国の計画策定が遅れていて、草津市が先行して作っていく形なので、他の自治体にも参照される可能性が非常に高い極めてまれなケースかと個人的には思っています。であればポジティブに、良いものを作っていければ、草津市が全国的にも知られていくのかなと考えていますので、第2期に向けてこういうところはより強化したい、こういうところは依然課題だから解決しないといけないということをざっくばらんに御意見いただけたらと思っております。

委員

第1期計画の中で私が特に注目しておりますのが3番・6番の校務とか教員の話です。教育ICT化といいますといかに子どもたちがタブレットを取り出して楽しそうにやっているかが重要視されるのですが、実際は、働いている先生方の負担感がどうかということが継続していくうえで大事かと思っております。

6番の方で、指導力の平均%が90%を切っている、1回も上回ったことはないというところで推測しますのは、もしかしたら第1期計画にお

いて現場の先生方にとってはICTを導入するというのが、メリットよりは御負担の方が強く感じておられる感じなのかな。

ICTを導入して校務の負担が減った、効率化したというお話とか、現場の肌感覚で、第1期計画はどのように受けとめられていたのかをお尋ねします。

座長 せっかく現場の先生方もおられるので、小中学校はどんな現状だったのでしょうか。

委員 小学校では、中学校よりも先に導入していただいて、教師が指導していく、それも個々の担任が指導していくというところで、当初、正直今言ってくださったように教師も得手不得手があるので、そんな中でどうしていくのかという不安があったのは事実です。

そんな中でいろんな指導力を高めるための条件を揃えてくださっていて現場として本当にありがたいです。

そこでちょっと遠のいていた教師が、その良さを実感することによって、自分でもできるんだというところで、どんどん面白さ、楽しさを教師自身が感じ、それを少しでもいった形で意識・意欲としてはできているように思います。正直お恥ずかしい話ですが、本校としては市内としても、活用率が当初低い方の学校だったのですが、これまでの授業形態の中で勝負してきた教師が多かった中で、新しい教育資源、タブレットなどICTを取り入れていくことで、また違った教育効果を実感することができました。どんどん変わっていつているなということは実感します。

委員 中学校は教科担任制ですから、まずは教科によってたくさん活用するものとそうでないものがあるというのが一つあります。

それともう一つ小学校でさっき言っていたように得手不得手というのがあります。学校によって年齢構成が違いますので、得手不得手の部分でいいますと、世代別の年齢構成によっては学校によっても格差があるのかなあと思っています。助かっているのは、今のところは月1回なんですけれども、ICTのサポートで支援員の方に来ていただいているので、そういった部分は大いに活用について助かっています。

なので、そういった来ていただく頻度が高まれば、特にパソコンが不得意だという教員については、スキルアップが図れるのかなと思っています。

委員 関連して、今後、オンライン授業などの展開を考える中で、その機器の

扱いに慣れるために、例えば学年会議などの会議をわざと一室に集まらずに、点在したところからオンラインで会議をしたり、日頃から先生同士のやり取りでコミュニケーションをとったり双方向の操作に慣れるという取組はされていないのでしょうか。会議のペーパーレスを図るために資料を印刷せずに、パソコンが1人1台あるのだからデータで共有する形になっているとか。例えば、すぐにオンライン授業は無理だけれども、避難訓練のように、夏季休業中にオンライン登校日として、試験的に子どもたちと双方向の接続テストとかがあると、保護者としては「進んでるな」という実感を得られると思うのですが、そういった先生方の日頃の成績処理とかもそうですけれど、どんな形で進められているのでしょうか。

委員

今まさに言ってくくださったように、スキルアップするために会議が増える、研修会が増えるとまた働き方改革と相反することになるので、その中でいかに時間をうまく使っていくか、そして指導力を向上させていくかが現場の正直な課題となっています。そんな中で今言ってくくださった普段使いの中で、職員会議のペーパーレスを進めていますし、あと、オンラインに慣れるために、職員室ではなく、それぞれの教室からつなぐようなことを実践しています。

オンライン授業については、コロナ禍で学校閉鎖を経験した学校として、学習保障をどうしていくのか、教育委員会のバックアップをいただきながら、一方的な発信だけでなく、相互に交流もできるように少しずつレベルアップしながら、実際にオンライン授業をさせていただきました。ただ、今言ってくくださった夏休みのオンライン登校日といった発想はなかったもので、まさにそういった普段の中での使用を考えていきたいと思いました。ありがとうございます。

座長

今出てきている意見は、校務をもっと効率化することをやって欲しいということと、教科の指導でももっと十分に使ってほしいということと、コロナ禍のような有事の際に活用してほしいということ。それから、それが見える化されていない、市民に見えていない、実感として伝わってきていないというような課題もある、ということかと思います。

実際には色々やられているようなのですが、もっと市民の皆さんに「GIGAスクール構想が導入されて良くなった」ということが見える化されていくとよりサポートしていただける状況ができるのではないかと思います。風を聞いていて思いました。

委員

先ほど時間前に、公募委員だからということで学校政策推進課が時間をとってくださって色々聞かせていただきました。タブレット端末等のPCを1人1台配備するにあたって、今回国の予算が入っているということではあったんですけども、正直言ったら、もったいないなと思っています。

月に何回以上授業で使いました、というのがあるんですけど、その回数を、かけ合わせても、タブレット1台何万円もするものを1人1台整備したのに、使っている回数としてはコスパが良くないというのは思います。ノートも教科書も文房具も併用して使ったままICT機器を使っているんで、コスパはめちゃくちゃ悪くなっていると思います、正直。

それ以上の、例えば学習環境が向上して、風邪で休んだりとか、学校に行きづらいときとかも、ずっとオンラインで学校の授業の風景がWebで上映されて、ちょっとお腹痛いから学校行くのしんどいけど音声は垂れ流しできるみたいな、そういうのがあったりとか。御家庭の環境にもよるんでしょうけれども、当たり前にある機器として使いこなせているかということ、そうではないのかなってという感覚はしました。

私は先生方のお仕事内容はわからないのですが、先生方が一番簡単になったら嬉しいなっていうところから支援して欲しいなと思いました。例えば宿題は画像を撮ってできたよと送ったらそれでOKとか。うちの子は忘れ物がすごく多くて、「宿題やったけど忘れました」ということが多々ある忘れ物女王だったのですが、そういう子もICTの助けがあればちゃんとやったけど、提出し忘れたみたいなきっかけがなくなったら、安心できるのかなと。こういうところで活用してもらえたらなと思いました。

座長

ありがとうございます。

もっとうまく使って欲しいとか、もっと気軽に使いたい、また「ICTならでは」も重視して欲しいということですかね。

委員

こんなことしたらダメなのかな、何で持ち帰ったらダメなんだろう。それがあるからこそできるようになるというよりは、これがあるんだったら、あれでもこれでもこれ使ったらいいじゃない、という感じです。

座長

委員は企業としていろんな自治体のサポートをする中で、今出てきたような意見や課題を解決できている事例とか、同様に課題を感じているという自治体の例は御存じですか。

- 委員 弊社のソフトウェアを今草津市で導入いただいて活用していただいているんですけども、他の自治体で実際にされている事例といたしましては、先ほどおっしゃったような宿題で、タブレットのカメラで写真を撮って教師に送って提出とするとか、またオンライン授業で、Teamsをつながら遠隔授業するみたいなのところも、他の自治体でされているところはございますので、システムのなところでは、実現は可能かと思えます。
- 座長 それはニーズがあるから、そういうシステムが実装されているのですか。それとも何となくそういうシステムを作ってみたらニーズがあったのですか。
- 委員 システム自体は、コロナの前からあった機能ですので、写真を撮って、書き込んで、送って、共有して意見交流だったりとか、協働学習だったりとかのニーズは元からあったところなので、それがコロナの時代になってなんて遠隔授業だとなった時に、こういう使い方もあるんだという価値が再発見されたというイメージかと思えます。
- 座長 草津市のICT戦略特別推進員から、上手い活用のアドバイスなどはあったりしますか。
- オブザーバー そうですね、私も龍谷大の教員もしておりますが、そういった中で、活用の仕方、保護者の方たちから依頼を受けて研修をするということが多くなってきているように思います。子どもたちがタブレットを持ち帰るにあたって、それをどのように安全に扱うべきなのかとか、あと夜中に触ってしまうとか、他府県含めていろいろ講演させていただいています。
- そういったものをどういうふうに整理していくのか、コントロールしていくのか、親の中では焦点として御質問いただくことが多くなっています。
- 子どもたちは興味本位で使っていけるけれど、反面、保護者の部分もあるのかなと、最近見えてきた課題かなと思っています。
- 座長 研修の対象がより拡大されているということでしょうか。
- オブザーバー そうですね。セキュリティポリシー含めて、どこまで線引をしていくのかというのが結構大事になるかと思えます。

座長

ありがとうございます。

項目が8項目あって、割と色々な項目について話せていると思いますが、まだ話せていない項目の一つに4番の「特別支援教育におけるICTの活用促進」があるかと思います。事務局からは、「さらなる指導力向上が必要である。」という課題が挙げられているのですが、学校の現場としては、どういう課題とか効果がありそうですか。

委員

特別支援学級もちろんそうなのですが、学習障害的な、特に読み書きで課題をもつ子どもたちにとって、自信に繋がるというのが非常に効果的な強みだと思います。上手なアプリや使い方によって個に応じた課題が明確に見えてきたり、自分が課題に応じた取り組みができるという点を評価しています。

委員

本校も種別で3学級がありますが、一つ思いますのは、ここに課題として書かれておりますように、障害の種別とかと特性とか、子によって違いますので、なかなかその一律の教材が使えないところがあって、例えば教科書でも、この教科については通常学級と一緒に学習します、でもこの教科については、本来の特別支援の学級で学習するとなるんです。そうするとまた違った教材を用意しなきゃいけない。でもその教材が統一された何か使えるかという、なかなか使えないので、結局各担任が、使えるようにカスタマイズしていかないといけないところがあるので、そこのサポートをどうしていくかというのが課題になってくるのかなと思います。

座長

個人的には今、ろう児・難聴児向けのオンラインでの科学ワークショップをやり始めていて、ICTを使うと、特別な配慮が必要な子たちが生き生きと参加できるようになるという経験があって、ICT自体がこういう特別支援みたいなものと非常に相性がいいのではないかという個人的な思いがあったりします。個別性が高いので、より高度なスキルが必要になるという話ではあると思うけれど、一方で、通常の授業以上の効果を発揮できる、先ほど委員からもあったような、ICTが活用できたから、こういうことができるようになったんだという実感を得やすいところかもしれないので小中学校の課題をうまく踏まえていければと思います。

大学のDXはこういった特別支援や合理的配慮はどれぐらい進んでいますか。

うちの場合はサービスラーニングセンターというところがありまして

委員

支援の必要な学生に学生同士でサポートし合うという仕組みを使っています。ノートテイキングや授業の録画等でICTを活用してきたという実績はありますが、言わばそこは特化した領域ともいえるわけでして、なかなか一般化が難しかったとも言えます。

ある意味最もDXが遅れているのが大学でもありますので、小中学校の先進的な事例から逆に学ばせていただいているようなことも多い状態かと思います。

続けてお話しさせてもらおうと、先ほど委員の方から「コスパが悪いのではないか」という指摘があったのは、私、非常に重要な点だと思います。

第2期以降になると、端末の御家庭負担という話が切実な課題となってくると思います。その時にやはり、「子どもを見ていても全然使っていない」「先生方も全然使っていない」というように、端末が眠っている状態なんじゃないのかと思われて、家庭に端末費用を負担いただくという話が難しくなっちゃいけない。千円2千円、1万円2万円のものでもない、結構高いものなので、やはり家庭の理解がしっかり得られて納得感を持っていただくということを考えるときに、ちゃんと使っているんだよということ、アカウントアビリティを果たさないといけないと思います。

先ほど委員から、中学校以降は教科制になってくるので、教科によってかなりばらつきが出てくるという話がございました。私も関西の私立中高のコンサルテーションを持っているんですけど、確かにそういう現実がございました。

ですので冒頭に提起させていただきましたように、例えば教員間の会議や、連絡、あとは家庭ですね。学校からの持ち帰り書類とかが多すぎて、家庭が紙だらけになってしまうとよくTwitterで炎上しておりますけれども、こういうところを例えば、ICT化デジタル化ペーパーレス化することで、「家庭にもメリットあるんだな」と納得していただける、お得感を感じていただけるような、そういう部分をまず洗い出してICT化できないかどうかを検討していくというのも一つの方向性としてはありかなと思います。

委員

県立高校も学校によって違うんですけども、今勤めている学校でも次年度から教科書購入と一緒にタブレットを1人1台購入してもらう方向で検討中ですし、すでに始められている県立高校もあって、1人10万円ほどかかるそうです。じゃあ自分でタブレットを持っている人はいいんですかということとそうでなくて、授業で一斉に使用して同じ機能じゃないってというのがあるので、全員に一律に購入をお願いしていると、すで

に実施されている学校の先生はおっしゃっていました。

そうなると先ほどおっしゃっていた費用対効果ではないですが、どんどん活用をなさйтеというか、活用しないといけないよと学校から言われています。私は家庭科なので、活用するとしたら、例えば被服の実習などで、進度が違う子たちを1人で見て一人ひとりに違うことを伝えないといけない中で、それぞれの進度に合わせた動画を個々が検索して見られるような形でタブレットを活用できるとすごく良いと思う反面、その動画を作成しておくなど、予めしておかないといけないことが膨大にあるなという不安があります。

また、機器がトラブルを起こしたらどうしよう、授業で指導している中で、フリーズしたとか開かないとかということになると、そのせいで仕事が煩雑になるので、それを先生方は負担に感じていらっしゃるというのは多いのではないかなと思います。特に義務教育だと一斉に同じことを子どもたちに伝えようとしてくださっているのがよくわかるので、トラブルに対して進度に差が出てしまうことを不安に感じる、心理的な負担があるんじゃないかなと思います。

トラブルが起こった時、パソコンの扱いや通信が途切れたとき等にサポート体制はあるのでしょうか。

委員 常駐というのはないですけど、ヘルプの連絡をさせていただくと、すぐに教育委員会から来てくださって対応して下さります。

委員 高校だと、情報の先生や理数科の先生でそういうのが好きな先生がいらっしゃるんですけど、そうなるとその人に全部いってしまうんです。教科担任制じゃない小学校だと、もちろんお得意の先生もいらっしゃるとは思いますが、空き時間なんて小学校はほとんどないと思いますし、難しいんじゃないかなと思います。

座長 第2期でこういうことをやって欲しいということを懇談する場ですので、常駐のサポーターがいるともっと安心になるんじゃないか、ということが現場の外からも見えているし、現場からも見えているという現状なのか。人をつけるためには予算が必要で大変だとは思いますが、そういうのが強く期待されていると思いました。

座長 続いて、次のセクション、第2期をどうするかという話に移りたいと思います。まだまだ事務局側で作り始めた段階ですが、事務局側から第2期草津市教育情報化推進計画の方針案というものが提示されていますの

で、説明いただいて、その後、同様に我々の方で意見交換できればと思います。

事務局お願いします。

<資料3により事務局説明>

事務局

以上で説明を終わらせていただきます。

第2期計画に必要な視点や、取組案など、御意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

座長

第2期の草津市教育情報化推進計画の上位には草津市教育振興基本計画というもっと大きな計画があって、その下に設置されるものです。

第2期計画の事務局案では、6つの基本目標があって、基本目標それぞれについて、施策がずらっと並ぶ形になります。実際に現場を動かしていくのは、この施策レベルのものがより実効性を持って、行われていくことになるんですが、施策をこなすこと自体が目的化すると、よくわからないことになりがちだと思うので、その上位に基本目標や基本計画がしっかり置かれることによって進めていくという構造になっています。

僕自身が、事前にこの資料をいただいて読んで、事務局にお願いして、今日資料4という形で出させていただいたのが、3つの基本原則案というものです。先ほど事務局と話をしている、基本原則より基本理念という名前の方が良いかとも言っていたのですが、6つの基本目標と施策体系との間に、こういう理念みたいなものを入れてはどうかと、僕自身が一つ提案させていただいています。

どんな理念かという、「子どもが主体である」「自由に選択できる」「多様な子ども誰しものが公平に」というものです。

平等と公平というのは違うというのは教育でよく言われていて、下に図をつけたのですが左側が「Equality」「平等」で、右側が「Equity」「公平」と呼ばれているものです。全員に同じ高さの下駄を履かせることが“平等”で、全員が果実を取れるっていう結果をもたらすように下駄の大きさを定めるみたいなものが“公平”の考え方だと言われています。

おそらくこの教育情報化を推進していく上で、「Equality」の発想で行き詰まる瞬間が出てくるんじゃないか。これは文科省からも結構指摘されていることで、例えば、Wi-Fiが家にない家庭でオンライン授業をどうやって受けるんだという発想になった時に、じゃあ全員ポケットWi-Fiを配ることはできない、LTEモデルのiPadを配ることもできないから、「オンライン授業はやめましょう」というような、「Equality」を重視するあ

まり、施策自体やめましょうという判断になってしまうのは良くないということコロナ禍の中で文科省も随分主張されていました。

ただ、実際にはWi-Fiがない家庭にどういった特別な配慮をすれば、オンライン授業を受けられるようになるのかはかなり個別性の高い配慮が必要になってくるので、下駄の高さを変えるのはかなり大変ではあるのですが、大学ではこういう個別の配慮をすることでオンライン授業をこなしてきたという実績もあるので、「Equality」の発想から「Equity」の発想になった方が良いんだという理念を示すのが良いかと思っています。

また、先ほど委員からも、持って帰っていいのか、なんで持って帰らないのかという意見があったように、これはこの先ずっと論争になりそうな気はするんですが、こういう理念を置いておいて、子どもが主体で自由に選択できる、子どもが持って帰りたいと言ったら子どもが持って帰れる、というような理念があると、より学校は施策としてやりやすくなるのではないかと考えました。

最近の教育はこういう「子どもが主体」だということを前面に押されていますし、子ども自身がある程度選択できる、何でも選択できるようになればいいという話ではないのですが、裁量がそれなりにあるっていうのが良いかなと思って提案させていただいています。

こんなふうに、ここにはないものを提案していただいても構いませんし、ここにある施策を見ていただいて、この施策は、より強力で推進してほしいとか、こういう課題があるとか、なんでも御意見いただければと思います。

第2期こうなって欲しいとか、まだ方針案の段階なので、今の段階だと、非常に意見が反映されやすい、汲み取ってもらいやすい段階だと思います。ドラえもんじゃないですけど、こんなこといいな、できたらいいなを言っていく会議ですので、いかがでしょうか。

委員

いくつか質問もあわせてなんですけど、今、おっしゃっていただいた持ち帰りについて、持ち帰りはしていくのですが、いくつか心配なことがあって、一番頻繁に持って帰らせられないのは、例えば行き帰りの時に落として破損したらその補償はどうするのという点。

あとは、うちもコロナの関係で、自宅待機の生徒が1人いて、その間4週間ぐらい遠隔授業を行ったんですけども、中学生だったら接続の仕方もある程度いけると思うんですけど、例えば学力的にしんどい生徒もしくは小学校低学年の子には、言ってわかるのか。今回も、結局つなぐところまでは担任が家庭まで行って段取りして、やっと遠隔の授業ができたので、それが例えば学校一斉になったときに、教師が全部出向いてやる

のかってなるとなかなか難しいと思うので、そうなるとう保護者の方にもそういった研修のようなものやっいていかないといけないのかなあと。誰がやるのかは別にして、学校も家庭も両方のスキルが上がっていかないとなかなか難しいかなと、今回1人の生徒ですけれども、行って段取りまでしているので、そこの苦勞が今後は課題かなと思います。

そうなるとくと例えば一般の企業でしたらサポートセンターみたいないつでも電話したら解決してくれるところがある、ああいうのも必要になってくるのかなと一つ思っています。

あともう一つは、例えば、本当に学校閉鎖となると、今度は全校レベルで一斉に遠隔授業となったときに、通信のパイプの太さ。聞くところによると、各学校から吸い上げて一本で外と繋がっているんですね。

事務局

この6月に改修工事を行いまして、それまではおっしゃる通り、センター集約型で20校が1本で接続していたのですが、今は20校各校から直接インターネットに繋がるようになっています。

委員

私が調べ不足ですみません。そうなるとうあとは太さの問題だと思うんですけど、通信速度も含めて確保するのが大事かと思いましたが、今やっいていただいているっていうのは安心しました。予算の関係もありますが、環境のところを維持していただきたいです。

座長

かなり基盤な課題で、そこを解決しないとどれだけ良い施策を立てたとしても地盤がゆるいという状況になってしまう課題です。

インフラ整備と補償の問題、それから保護者の理解・スキルの問題はオブザーバーも先ほどおっしゃってくださっていました。保護者の話が出たのでお伺いしたいのですが、保護者に研修をするというのはどれぐらい現実的なことと受け止められるでしょうか。

委員

入学説明会とかで言っしてほしいですかね。あとは、オンラインでいつでも見たら良いとかって研修なら良いと思います。子どものタブレットって思ったら自分は使わないと思うかもしれないけど、でも家電製品は日頃使っているし、初めて買ったら使い方を覚えて使うと思うので、「使い方を覚えて子どもと正しく使おうね」という家電製品レベルの研修であれば。情報リテラシーとかは別として、そういう使い方は親のためにもなるのではないかと私は前向きに思います。

委員

私もPTAの役員をさせていただいていたのですが、学校に集まって

の研修っていうのは本当に集まりが悪いのでなかなか難しいと思います。委員が今おっしゃったオンラインでの研修っていうがあれば、非常にありがたい、視聴率が上がるんじゃないかという気はします。学校で研修しますって言っても参加してくれるのは一部の保護者で、正直なところ、本当に聞いてほしい方は足を運んでくださっていないというのが現実だなと感じています。

保護者としてはもちろん破損したときの不安感はある、本当にこれ子どもに持たせて良いのかという気持ちではあるので、扱いについてどこに相談したら良いとか、保険に入っているのかとか、その辺の説明会があればありがたいです。

昨年新型コロナのおかげで1人1台が一気に行き渡って、持ち帰って来たときに、初めて子どもたちのタブレットの中身を見ることができました。授業参観に行っても、子どもの横で遠巻きに見るだけなのでわからなかったのですが、例えば体育の授業でこんな動画をお互い取り合って、ストップモーションとかスローモーションまで子どもたち使いこなしているとか、振り子の動画を自分たちで撮って、「俺の班はこういうことやってみてん」という風に解説しながらタブレットの中身を見せてくれて、すごい色々やっているのねと全然知らなかったし、子どもが「こんなんやってん」「あんなんやってん」と話すタイプではないので余計に、持ち帰って見せてもらったことで、タブレットでこんないろいろなことをしていることを知る機会になったので、保護者にとって持ち帰りはいい機会でした。

座長

どのようにしたら持ち帰ることができるようになるのかという議論ですかね。そこをうまく計画で推進して下さったら、持ち帰ることができて保護者も実感が得られるし、ひょっとしたらその持ち帰って来たものを通して、保護者が子どもを通して使い方を学ぶということもできるのかと思いました。

委員

先生が話しているところを動画で撮って流すだけで良いと思います。

私この間、格安スマホの契約に行ったのですが、契約の内容とかは店員が説明するのではなく、すべてタブレットを視聴する形でしたがわかりやすかったです。

対面式でやっていた研修会っていうもの概念を取り払って、動画でグラフや図や気をつけるべきポイントを読み上げるだけでも、十分な研修になるんじゃないかなと思います。

座長 オンラインで、オンデマンドでやるような、いつでも受けられるような類のものを整備するというのが一つの案として出ています。

 委員のところでは、そういう保護者向けのニーズをとらえた何かサービスとかされていますか。

委員 そういった研修の教材はないのですが、どこがどちらかという、弊社のソフトウェアの使い方に関してはウェブサイト上で開示しており誰でも見ていただけるようになっています。

 家庭だけでなく、学校でも、こういう授業を組み立てたいんだけど、どういう機能を使えばいいんだろうかというようなところを取りまとめているサイトがございますので、そういった形で、いつでもどこでもというものは用意させていただいております。

座長 今、「持ち帰り」というのが現場と家庭をつなぐ一つのキーワードとして出ていて、それはニーズが高いけれど課題も多いのでここで解決したい課題です。

 他にこれは絶対成し遂げておきたいということはありませんか。

委員 また保護者視点からになるのですが、先ほど委員からもお話があったように学校からの手紙が多い、紙が多いです。今回の会議も紙が多くて、書類は見慣れている方だと思うのですが私も他の委員の皆さんのようにパソコン持ってきたら良かったなって。こういったものも全部データで送って欲しくて、回答も、GoogleFormとか無料のもので良いのでそういったもので回答するにすれば、先生も1枚ずつ集計せずにすぐにCSVで吐き出してパソコン上で校務ができると思います。

 それから、私、この委員に応募させていただきながら申し訳ないですがメール見ないんです。それで事務局の方に御迷惑をおかけしちゃったりもしてそれは私が悪いんですけど、学校からの連絡が電話連絡とか連絡網からメールになったことで、今のお母さん方はだいぶ助かるようになったと思うんですが、今や、電話番号を持っていないとかメールアドレスを持っていない方も多い中で、紙でしか連絡手段がないというのは非常に心細いと思います。子どもを介すので、高学年やしっかりしたお子さんなら大丈夫と思うのですが、なかなか円滑な連絡ができなかったり問い合わせが届かなかったりとかがあるので、それをなんとか解決できないかなと思います。

 今回の資料で言うとテキストで抽出できるような形でPDF化してくれたら、きっと私は今ここでスマートにパソコン開いて会議に参加でき

たと思いますし、そこまで保護者の方との日頃のやりとりをしてもらわなくてもいいので、学校だよりとか行事のお知らせとか、そういったものが、例えばLINEで届くとか、学校との連絡専用アプリに届くかとしてもらうと、プッシュ通知でポップアップされるので、スマホを持っている家庭だとしたらすごく楽だと思います。

そういったものを1から開発して何百万円も開発費がかかってしまうとやっぱりもったいないと思うので、今ある既存のパッケージとか、無料サービスの範囲内でそういったものを使えるのだったら、導入されたら良いのではと思います。

私も実は元々市役所に勤めていて、保育所の先生方との連絡をメールでできるようにするっていう業務を担当したことがあったのですが、9割の先生は上手にメール使えるけど、残りの1割の先生はメールすら使わないっていう時代に担当になったので、1割をどうするかっていうのですごくもめました。9割の先生はメールがあると助かる、でも1割の先生はメールが使えないからメールにしない方がいいんじゃないかっていう議論がやっぱりそこでもありました。

今の、紙がないと家に連絡がつかないとか、メールじゃないと家に連絡がつかないっていうグレードが変わっただけで話は同じだと思うのですが、先生方にとっては、100人いる生徒のうち、90人と円滑に連絡が取れたらすごく楽になると思うんです。残りの10人に印刷物を渡すだけなら、100人に印刷物を渡すより絶対楽だと思うので、そういうところを改善してほしいなと思います。

座長

ありがとうございます。僕もまったく同じことを感じて、さっきの平等と公平の話をさせていただいていたのですが、90の方に明らかに便利だと思われるサービスを提供できない理由っていうのが、それなりには現場にはあるんだろうなと思うのですが、90人に便利なサービスを提供することで残りの10人もひょっとしたらそっち側に入ってくるかもしれない、何から始めていいかわからないというところが、教育情報化の推進の難しいところだと思います。

特にガイドラインがまだ出てない中で、草津市が先行してやっていくのであれば、今のような保護者サイドからの意見をうまく汲み取れば、明らかに保護者のサポートが増える、保護者が満足して、これだったら意味があるわって思ってくれたら、草津市が好きになって、そういう良いサイクルになる最初のきっかけになりそうとも思います。

委員

先ほど委員がおっしゃったこと、いちいち首がもげるほど頷いていた

のですが、これ一自治体の情報化どうしようというよりは、もう少し大きい、全国のリーディング的な、サンプルになれるような、お手本になれるような取り組みをしていきたいということであれば、エッジの効いたことをやっていかないといけないと思います。

委員がおっしゃったように9割ができているのに1割に配慮してってというのは、これ情報化で一番失敗しやすいパターンで、私も10年現場で働いてよくわかりました。IT苦手な人に合わせて仕事していたらあかんです。サポートは必要ですけど、そっちにばかり気を遣っていたら、全体の最適化が進まないです。

なので、提案としては、今SNSを子どもから取り上げたり離そうというふうな感じですけど、いっそ使ったらどうかと思います。SNSといったら世の中色々なSNSがあって、LINEとか、教育用の家庭と学校を結ぶSNSでEdmodoという有名なものがありますし、学内ですと例えばSlackとかTeamsとかKintoneとか、何でも良いです。僕自身も紙は嫌、メールもほとんど見てないです。いっそ、そういう新しい教育のコミュニケーションの形というのを、一つの足掛かりにされてはどうかと思います。

私が冒頭から、校務の話をつっ込んでいましたのは、一番校務で楽になるのがこのコミュニケーションの部分だと思うんですね。家庭科の実習の話が委員からもありましたが、じゃあ「この動画を見ておいて」とどう学生に伝えるのか、例えば学生全員が同じSlackやTeamsのチャンネルの中にいたら、「先生今こっちのことやってるからYouTubeのこの動画のURL貼っとくからこれ見といて」、これができるんです。

コロナで大学含めてめちゃくちゃ混乱したのが、日本の大学って学生とのコミュニケーションチャンネルが非常に少ないということがわかったんです。メールとLMSの掲示板ぐらいしかなかった。うちは自分たちで勝手にSlack作ってそこに1,500人くらいの学生を入れていたので何の混乱もなかった。大分差が出たと思いましたね。

ですので、この第2期では、ぜひ、いろんなSNSの使い方があるんだよっていうことを一つ売りにされてはどうかと思います。

やっぱり家庭に紙が届くのはかなりストレスだということがよくわかりましたので、でもそこがもし解消できれば、高校の方でも、うちもやりたい、じゃあすいません家庭で10万円負担してくださいことを言いやすいんじゃないかと思います。具体的なこうすれば良くなりますよというプランもなしに、10万円ちょうだいてというのは、反発を招くだけだと思うんですね。なのでグッドプラクティスをぜひ小中の第2期計画で打ち出していきたいなと思います。

座長

SNSっていう言葉がちょっと現場には刺激的だったりしそうですが、実際には校務系の Teams とか Slack を保護者とか児童生徒に開放していくとか、そんなイメージですよ。広い意味での SNS というか。

Twitter とかインスタグラムとかフェイスブックとかよりも、Teams とか Slack とかっていうのは校務系にも使えるし、児童生徒・保護者との連絡にも使える。そういう意味ですね。

現実的には何かモデル校みたいなものを設けて社会実験されたりとか、逆に大学でどう使っているのか研修に来るというのも一つかもしれないですね。

保護者側の研修の話も出たと思いますが、保護者側を巻き込めるようなツールがあれば、当然保護者は使わざるを得ないし、逆に使うことで便利だと実感して、サポーターになってくださるっていう良い循環が生まれるかもしれないですね。

一方で、多分現場にも課題があらうかと思しますので、小中学校 ICT 推進部会ではどういう議論があって、どんなことが課題になっていますか。

委員

持ち帰りは確かに学校現場としてすごく話題になっています。活用するには持ち帰っているいろんな場面であることを思うのですが、どうしても保守的な部分があって、生徒指導上に関わる問題が起こらないだろうとかかかってしまう学校の心配があります。

そんな中で、言ってくださったみたいに授業の一環として、条件つきとかお試的に持ち帰る機会は増やしています。その中で保護者も巻き込んだ取組を通じて保護者理解を図っていかないといけないということは課題として思います。

あとは先ほどペーパーレスの話がありましたが、ちょうどこの間も学校にいらした方が、「学校だより、紙いらんな。いつでもなんでも振り返って見られる、そういうのがこれから大事やで」とまさに同じお話を聞いていたところでした。

まだ、授業実践の中でどう取り組んでいくかということも実態としてまだまだ課題なのですが、授業と、保護者を巻き込んだ広い視野で考えていかないといけないなということを改めて思いました。

座長

終了予定時刻まであとわずかですが、何か言い足りないことはありますか。

委員

今まであまり話が出てなかった観点で、基本目標の2番目の情報モラルは、他の自治体と話をさせていただいても、かなり重視をされているところだと感じています。持ち帰りだったり、1人1台環境を活用していく中で、情報モラルもそうですし、プログラミング的スキルであったり、情報活用能力だったりというところの指導は、ぜひ注力いただきたいです。

あと実際それを指導した、結果のところ、やった後の振り返りだったり、或いは評価の指標だったりというところが、ここにはカリキュラムマネジメントと書いていただいておりますけれども、そこのが肝心になってくるかと思しますので、ぜひ取り入れていただけるとありがたいなと思います。

座長

情報モラルという基盤があつてこそ、活用があるというのは間違いのないと思います。

今日の懇談会で出てきたことは、かなり基本的な課題をおさらいしたところも多かったと思います。情報モラルの話、持って帰るのか・持って帰らないのか、補償はどうするのかという問題とか、そういう基盤的なところで解決できていない課題は次の第2期でぜひとも推進していただきたい話であったかと思えます。

それから、なかなか定量化しにくいところではありますが、コストパフォーマンスの面で納得したいとか、使っているということを実感したいという形ですかね。こういうことが、教員側と児童生徒側と保護者側の全員が納得できるような仕組みみたいなことができれば良いなという議論をしていました。

あとそれにはやっぱり、人、サポーターが足らなさそうという話ですね。最初やり始めるときはエネルギーがいる、このエネルギーはやっぱり、人だったりお金だったりを追加投入しないと、最初が回り始めないということはよくあるパターンとは思うので、どこか適切なタイミングで厚くサポートできる体制をとらないと、結局あれをやったほうがいいのはわかっているけど、やる余裕がないということになりがちかと思えます。これは個人の意見ですが。

いずれにしても、この懇談会自体が、懇談会という名前のとおり市の政策を直接審議・決定する会議ではない、ということではあるんですけども、事務局側で今日出てきた意見を汲み取っていただいて、第2期に生かしていただくようお願いしたいと思しますので、どうぞよろしくお願い致します。

では事務局に進行をお返ししたいと思います。

事務局

座長ありがとうございました。委員の皆様方、活発な御意見をいただきまして誠にありがとうございました。

本日いただいた御意見を参考に、事務局の方で第2期の教育情報化推進計画の策定を進めて参ります。

これを受けまして、第2回の懇談会ですが、今のところ日程は未定ですが、10月下旬頃の開催で調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第1回教育情報化推進懇談会を閉会とさせていただきます。

皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。

11:30終了